

学びをひろげる (第13回)

※ ○は、自分以外の参加した人の数です

まる (わたしと○人の会)

日時 2015年11月28(土) (1時45分~5時)
場所 クレオ大阪東
(大阪市城東区鳴野(しぎの)西 2-1-21 ☎06-6965-1200)
参加費 500円(会場費・運営費等) ※学生は、無料です。



京橋駅 (JR線) 南口から南へ約 600メートル
大阪ビジネスパーク駅(地下鉄長堀鶴見緑地線)
4番出口から東へ約 700メートル
京橋駅 (京阪線) 中央口から南へ約 850メートル

一人で拡がらない学びを○人が集まり、多様な人たち(年齢、国籍、職種など様々な人たち)との出会い・対話を通して自分の学びを拡げ、授業づくり・教材づくりをしませんか。もう一度、教育・授業のあり方をていねいに見つめ語り合しましょう。



前回 第12回の内容

JICA インクルーシブ教育研修・ワークショップ『障害者がみんなといっしょに学び合うことについて』を、松森が報告しました(以下その概略) —9 か国 16 人の研修員が来日。ワークショップの大まかな流れ①人工呼吸器ユーザーのユウタロウさんの映る映像②ユウタロウさんと両親が登場。③生い立ちを聞く。④「みんなといっしょに教室で授業を受けているが、学習していると思うか?」をテーマにディベート⑤地域の中学校での様子を聞く。⑥「いっしょに教室にいることは周りの生徒にとってプラスになるかどうか?」をディベート⑦高校受験と高校生活の現状を聞く。⑧意見交流⑨ユウタロウさんと研修員が直接に話し合ってみる。ユウタロウさんの意思表示の方法は瞬きだけ。—研修員の自分を開いて相手に伝えようとする積極さや、討論を楽しむかのような開放感、日本人では感じられないものがありました。「今朝まで重度の障害者は学習できないと考えていたが、今日で変わりました」「自分の国では、施設も設備も専門的知識ありませんが、それでもやらなければいけない、やれると思った」…など、自分の国の現実や経験を通して考え、次々に意見が出ました。中には、「感動で言葉が出ないので」と、前に出てお母さんの頭に美しい花輪のレイをかぶせて抱きしめる一幕もありました。その場にいた研修生も日本人の参観者も、深く学び合う時間を共有できました。



今回 第13回は



研究会のようす

吉岡数子さんの実践「隠れ総合」に学び、現行教育を問う!! (“平和人権子どもセンター・教科書資料館”代表)
今回は、堺市の小学校で教員をされていた吉岡数子さんに「隠れ総合」の実践を報告していただきます。吉岡さんは戦時中に皇国民教育を受け少国民になったといえます。しかし、満州で受けた自由な総合学習がその後の吉岡さんの人生に大きな影響を与えたといえます。吉岡さんを囲み、日本の現在を見据えつつ、参加者で教育実践の大切さと恐ろしさについて考え合ひましょう。堀は一度だけ吉岡さんのすばらしい総合学習の実践を拝見しました。障害のある子も一人の「この子」として自然な形で生き生きと学んでいたのをはつきりと覚えています。
〈吉岡さんのプロフィール〉1932年朝鮮に生まれ、1937年、傀儡「満州国」へ移住。1944年、日本へ帰国。敗戦で教科書の墨塗りを体験。1955年、京都学芸大学を卒業。大阪・堺市で小学校教員として勤務するかたわら平和・人権学習の教材化・パネル化に取り組む。1991年に退職して、堺市立「平和と人権資料館」に嘱託勤務。1997年、私設「平和人権子どもセンター」を設立、その後「教科書総合研究所」を開設、現在に至る。このたび、北岡順子さんと共著で『教科書が語る戦争』(大阪公立大学共同出版会発行)を出版された。

「学びをひろげる」スタッフ 堀 智晴、松森 俊尚、山本 卓雄
連絡先 松森 (☎090・1960・3469 ☎✉gakimon57tm@ezweb.ne.jp ☎✉matumori@crux.ocn.ne.jp)
山本 (☎✉yamamoto2.cham-miku@nifty.com) 堀 (☎✉hori720@hotmail.com)
★次回第14回研究会は、2016年1月23日(土)午後1時45分~5時 クレオ大阪東 で行います★